

製品名: OPRD1 (18U12) ウサギモノクローナル抗体

カタログ番号: AMRe15359

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ICC/IF,FC
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02%新型保存料 N、50%グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,ICC/IF 1:100-1:500,FC 1:20-1:50
分子量	40kDa

抗原情報

遺伝子名	OPRD1
別名	Delta type opioid receptor; Delta type opioid receptor DOR1; DOR 1; mDOR; Nbor; Opioid receptor delta 1; OPRD 1;
遺伝子 ID	4985.0
SwissProt ID	P41143
免疫原	ヒトデルタオピオイド受容体の合成ペプチド

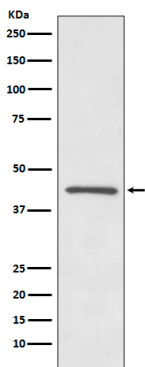
背景

オピオイド受容体は、エンケファリン、エンドルフィン、およびダイノルフィンの G タンパク質共役型 7 回膜貫通型受容体です。シグナル伝達によりアデニル酸シクラーゼ活性が阻害されます。カルシウムイオン電流を減少させ、カリウムイオン伝導性を高めることで神経伝達物質の放出を阻害します。痛みの知覚とオピオイド系鎮痛に役割を果たします。モルヒネに対する鎮痛耐性の形成にも役割を果たします。内因性エンケファリンおよび他のオピオイドのサブセットの受容体として機能する G タンパク質共役型受容体です。リガンド結合により構造変化が起こり、グアニンヌクレオチド結合タンパク質 (G タンパク質) を介したシグナル伝達が誘発され、アデニル酸シクラーゼなどの下流エフェクターの活性が調整されます。シグナル伝達によりアデニル酸シクラーゼ活性が阻害されます。カルシウムイオン電流を減少させ、カリウムイオン伝導率を高めることで神経伝達物質の放出を阻害します。痛みの知覚とオピオイド系鎮痛作用に関与します。モルヒネに対する鎮痛耐性の形成にも関与します。

研究分野

神経活性リガンド-受容体相互作用;

画像データ



SH-SY5Y 細胞溶解物における OPRD1 発現のウエスタンブロット解析。